

2021年2月24日発行

神奈川イグレンの活動状況を伝える機関紙

神奈川イグレンニュース〈第215号〉

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事 芝 忠 編集：事務局長 愛賢司

〒231 - 0015 横浜市中区尾上町 580 神奈川中小企業センタービル7F

TEL/FAX0 45-228-7331 <http://www.kanagawa-igren.com>

(目次)

①ちぐはぐ感が否めない日本企業 (ページ 2)

アジアビジネス探索者 増田辰弘

②社長さんへの手紙(第7号)

『経営理念の見直しをしませんか』 (ページ 3)

中小企業診断士 加藤文男

③川崎異業種研究会通信 (10月定例会) (ページ 4)

④【閑中閑話】 (ページ 5)

ちぐはぐ感が否めない日本企業

アジアビジネス探索者 増田辰弘

個人的なことで恐縮だが、私が主催するアジアビジネス探索セミナーの事務局長は超デジタル人間で、私の活動でも事細かに指導を受けている。デジタル的思考というのは普通の日本人には相当難しいし、日本という社会がデジタル化に大きく遅れていることにも改めて気がついた。

日本株式会社の正統派企業とも言えるパナソニックはこの30年間、年間売上高約8兆円も株式の時価総額約2.6兆円もほとんど変わっていない。これは同社がやる気をなくしていたわけではない。優秀な人材が入社し、優れた経営者が会社を運営してきた結果なのだ。そして、これは、パナソニックだけではなく多くの正統派企業がそうであり、日本経済自体がそうなのだ。

現在、GAFにマイクロソフトを加えた5社の時価総額は700兆円を超える。一方、東証一部の上場企業のすべてを合わせた時価総額は約650兆円程度であるから、勝負になどならない。これも日本企業が手を抜いてさぼってきたわけではない。30年間、官民上げて頑張った結果なのだ。

これは、日本人の能力が欠けているわけではない。若干、人材の配置を間違えていたのだ。例えば、行政のデジタル化を進めるグラファール（本社・東京都渋谷区）の石井大地CEOは、大学では医学部に入り医師を目指すのが、途中で進路を変更して小説家になり、その後、現在のソフト会社を創業した。同社の役員陣も野武士を集めたようでまさに多彩。日本株式会社の傍流派企業ともいえるが、今や世界的に見ると、成長企業の姿はこのタイプが主流である。

何千年もかけて培ってきた日本の島国型農耕文化は、やすやすとは変わらない。A社は優れた開発者に年俸2000万円で契約する。B社は年功序列、定期昇給を止めて成果主義年俸とする。多くの日本企業が農耕文化なりにデジタル的思考法を持たねばと努力している。しかしながら、どうにもちぐはぐ感は否めない。それは欧米企業の現象面を捉えて追っているからだ。これでは経営者が使うのに便利な正統派の開発者は育つかも知れないが、いま日本企業に必要なのはデジタル的思考の傍流派の経営者であり、開発者である。そのためには会社の根元を変えねばならない。残念ながら根元を変えて成長企業に変身した会社は少ない。日本経済も日本企業も、この長きトンネルはしばらく続きそうである。

週刊BCN 2020年12月21日 vol.1855 掲載

社長さんへの手紙(第7号)

『経営理念の見直しをしませんか』 中小企業診断士 加藤 文男

社長さんは、ご自分の「夢の実現すること」で創業されました。自分自身の経験と能力を生かし、強みを出して社会に価値を提供して貢献したい。当初は、社長さんも若かったこともあり、夢の実現を目標に相当の意気込みであったともお聞きしました。創業以来20年余り、利益の拡大を目標として販売高の増加、安定した経営を目指して、ひたすら頑張ってきてられました。社員も増えて30名を超えました。ここ数年のお客様を増やしてサービス業として安定した経営が見込まれ、利益を計上できるようになったのは社長さんの努力の賜物です。

しかし、社長さんは、先日何気なく「最近利益の拡大だけが社会に貢献できることではない」と一言漏らされました。確かに創業以来、社会情勢にも大きく変化がありました。働く社員の年齢構成や意識も変化があり、更に地域社会からの評価も変わってきていると言われています。この間社長さんには、他人には言えない相当のご苦労と体験が積み重ねられたと推測されます。このような社会や環境の変化の中に社長さんの企業経営の考え方や意識に何か大きな変化の兆しを感じられたのかもしれませんが。

日本には、老舗と言われる創業100年を超える企業もたくさんあります。老舗は、創業者の商売の考え方、つまり、経営理念を社員や従業員の行動の規範として、家訓、社訓、社是などの形で継承しながら、全社員に浸透させ、成長発展の原動力になってきたと言われていています。老舗を取り巻く社会環境は、大きく変化があったはずですが、老舗では番頭さんを中心に変化に上手に対応しながら、長寿企業として評価され、日本の経済社会の中で経営理念は大変重要な約割を果たしてきたようです。

経営理念は、会社の存在意義や使命、会社の経営目的などを社会の理法や自然の摂理にかなった正しい社会感、人間感に根差した考え方を具体的に表現したものと理解されています。基本的には、社会が大きく変動しない限り、長期間、変らないもの、また、変えないものともいわれます。経営理念は、経営者及び社員の行動の基本、基準であり、建前ではなく、これに向かって進む本音であり、壁にぶち当たったときに判断の基準となるもので、従業員も含めて企業活動の全てが経営理念と矛盾してはならないものと言われます。

創業者は、「思い」や「情熱」をもって起業します。しかし、創業者に良いアイデアがあっても一人の力には限度があり、他人の力を借りることになります。そこで創業者は、「思い」や「情熱」を熱く説明しながら人に協力を求めて経営していきます。創業者と同

じ考えや情熱がないと事業は効率が悪くなります。社員が少ない内は、毎日のように創業者の思いを熱く話をする 것도でき、考え方や行動の間違いを修正できます。しかし、人数が増えると創業者の考えを丁寧に説明する時間が取れるとは限りません。創業者の考え方を簡潔にわかりやすくまとめたものが経営理念なのです。

社長さんの会社では、幸い社員の方々が経営方針を正しく理解し、間違いのない行動により、事業を順調に伸ばしておられます。しかし、先日、社長さんが私に何気なく話をされた「社会に貢献」に関する一言が気になりました。社長さんは、何か大きな変化を感じ取っておられるように思われました。利益の拡大を主な目標として活動すると知らず知らずの内に会社の内外に犠牲を強いるほどでないにしてもご迷惑をかけると言われていきます。社長さんの会社も近く創業 25 年を迎えます。この機会に創業当時の初心に帰り、経営理念を見直す良いタイミングかもしれません。幹部の方も含めて、これからの経営の在り方を一緒に考えてみてはいかがでしょうか。

川崎異業種研究会通信 10 月定例会

10 月 15 日（木）当所にて会員 10 名、オブザーバー 1 名の参加者を得て 10 月定例会を開催した。

講師に当会オブザーバーでもある川崎信用金庫お客さまサポート部 審査役 藤枝弘光氏、調査役 竹内敏氏を迎え、「最近の地域経済状況について」と題し講演会が行われた。

同金庫による中小企業動向調査に基づき、実績、見通し、地域経済の動向等について説明された。新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言解除後の前期（4-6 月）の調査と比較すると、今期（7-9 月）は良化している。しかしながら、前期に続き全 7 業種が二桁マイナス値を示す等、依然厳しい状況となっている。次期（10-12 月）の業況見通しは今期と比較し横ばいとなっているなど、詳細な調査結果を示しながら解説された。その他経営上の課題や解決策について具体的に述べられ、講演後は質疑応答も活発に行われた。身近な地域の経済状況を学ぶ有意義な講演だった。

当日は、コロナ禍における会合実施策の一つとして、会員が ZOOM によるリモート参加もできるよう試み、利用する会員もいた。また、久しぶりに参加する会員、新入会員の参加もあり会の雰囲気は活気づいた。

【閑中閑話】

若い人たちにはあまり関心が無いかも知れませんが、後期高齢者世代にはちょっと気になる全国有料老人ホーム協会編「シルバー川柳」を紹介します。

- ・三時間 待って病名 「加齢」です
- ・誕生日 ロウソク吹いて 立ちくらみ
- ・この頃は 話も入れ歯も かみ合わず
- ・延命は 不要と書いて 医者通い
- ・目覚ましの ベルはまだかと 起きて待つ
- ・改札を 通れずよく見りゃ 診察券
- ・万歩計 半分以上 探し物
- ・目には蚊を 耳にはセミを飼っている
- ・留守電に 「ゆっくりしゃべれ」とどなる父
- ・探し物 やっと探して 置き忘れ
- ・少ないが 満額払う 散髪代
- ・厚化粧 笑う亭主は 薄毛症
- ・クラス会 食後は菓の 説明会
- ・恋かなと 思っていたら 不整脈
- ・これ大事 あれも大事と ゴミの部屋
- ・景色より トイレが気になる 観光地
- ・へそくりの 場所を忘れて 妻に聞く

77歳で退任したロナルド・レーガン元米国大統領は、在任中によく居眠りをしたらしい。退任間近にこういうジョークを言ったそうだ。「早く我が家に戻りたいよ。椅子の背にもたれ、足を机に乗せ、長い昼寝をするんだ」。そういった後、「でもよく考えたら今とあまり変わらないか」。『グレートコミュニケーターと呼ばれた彼はそんな自分をジョークのネタにした』。『レーガンのユーモアが示すように老いは偉大なコミュニケーターの妨げにならない』。『老齢とは衰えのことでなく、対立に橋を架ける大いなる知恵の源泉である』
(以上『毎日新聞』1月22日朝刊「余録」から)

上に紹介した「シルバー川柳」にも、高齢を迎えたシルバー世代の自分をジョークの対象にする自己反省の意識とある種の余裕すら感じます。レーガンと同じように一国のリーダーを経験し、しかも元大統領より多くの『知恵の源泉』を学ぶ機会があったはずのこの国の元首相の時代錯誤の発言は、トヨタをはじめ国際的に事業展開している大企業の批判を浴びたことから、彼の発言が、ジェンダーの世界標準から著しく遅れていることを示しています。自戒を込めて。